

登山関連週刊ニュース：2026年3月21日～27日

1. 週間概況と重要警戒事項

2026年3月下旬、日本列島の山岳域は冬から春への過渡期にあり、気象・地質・生物の各方面でリスクが急激に多様化しています。低山では春の兆しが見える一方、高標高地では依然として厳冬期並みの環境が続いています。特に3月21日夜には、都市部に近い丹沢・蛭ヶ岳山荘付近でも **マイナス10度以下の低温** を記録しており、「春山」という言葉に惑わされない厳重な防寒装備と警戒が必要です。今週、命を守るために遵守すべき最重要警戒事項は以下の4点です。

- **アクセス寸断**：大規模な斜面崩落や山火事により、主要登山口へのルートが各地で断絶しています。
- **火山活動の活発化**：阿蘇山のレベル引き上げをはじめ、各地の火山で微動や地震が増加しています。
- **融雪雪崩**：気温上昇に「降雨」が加わることで、予測困難な全層雪崩のリスクが最大化しています。
- **早期のクマ活動**：例年を大幅に上回る早さで冬眠明けの個体が出没しており、人身被害の危険が高まっています。

2. 山岳アクセス規制・道路情報

自然災害や火災により、従来の登山計画が遂行不可能なエリアが拡大しています。

2.1 静岡県：県道189号（南アルプス公園線）の大規模土砂崩れ

3月21日午前、静岡市葵区の県道189号にて、高さ70m、幅20mにわたる斜面崩落が発生しました。

- **影響**：白樺荘や榎島ロッジ方面への道が完全に寸断され、宿泊客ら79名が一時孤立する事案となりました。
- **登山制限**：赤石岳・荒川岳等、南アルプス南部への主要アクセス路が失われたため、当面の間、当該エリアへの入山は不可能です。

2.2 群馬県・長野県：山林火災に伴う通行規制

- **長野県木曾町**：3月24日夜に発生した三岳の火災に対し、自衛隊へ災害派遣が要請されました。現在、**ヘリコプターによる空中消火活動**が展開されており、入山は消火作業の妨げとなるだけでなく、墜落物等の二次災害を招く恐れがあるため、御嶽山周辺への立ち入りは厳禁です。
- **群馬県上野村**：山火事の影響で国道299号の一部および林道住居附線が全面通行止めです。諏訪山や二子山へのアクセスは現在遮断されています。

2.3 その他地域の規制・開通状況

- **神奈川県・鷹取山**：落石の恐れにより、神武寺～鷹取山間のハイキングコース一部通行止め。
- **群馬県・谷川岳**：登山指導センター先ゲートは冬季閉鎖中（令和8年5月22日まで全面通行止め）。
- **山形県**：県道藤島由良線で大規模土砂崩れが発生。復旧の目処は立っていません。
- **栃木県**：那須高原線（大丸温泉～那須ロープウェイ山麓駅）の冬季閉鎖は解除されましたが、路面凍結への警戒を怠らないでください。

3. 火山活動の最新状況

気象庁の発表に基づき、監視体制の強化と規制範囲を整理しました。

3.1 警戒レベル引き上げ・監視強化

- **阿蘇山**：火山性微動の振幅増大により、**噴火警戒レベル2（火口周辺規制）**へ引き上げ。
- **中之島**：3月26日より、24時間体制の「常時観測火山」に追加されました。
- **薩摩硫黄島**：3月31日より噴火警戒レベル2の運用を開始予定。事前情報の確認を徹底してください。

3.2 継続中の規制火山一覧

以下の火山では立ち入り規制が継続されています。| 警戒レベル/警報 | 対象火山 | 規制内容・補足 || ---- | ---- | ---- || **レベル3（入山規制）** | 桜島 | 火口から居住地近くまでの立ち入り制限。 || **レベル2（火口周辺規制）** | 雌阿寒岳、岩手山、浅間山、草津白根山（湯釜付近）、御嶽山、霧島山（新燃岳）、諏訪之瀬島、阿蘇山 | 火口周辺への立ち入り禁止。岩手山では火山性地震増加と降灰予報あり。浅間山も地震増加傾向。 || **噴火警報（継続）** | 西之島、硫黄島 | 火口周辺・入山危険。極めて不安定な状態。 |

4. 雪崩リスクと気象分析

気温の上昇と断続的な「降雨」により、積雪層が極めて不安定な状態にあります。

4.1 雪崩注意報の発令状況

- **北海道**：札幌、小樽、十勝地方
- **群馬県**：利根沼田地域
- **長野県**：北部、中部
- **新潟県**：県内全域

4.2 発生リスクのメカニズム

現在の最大のリスク要因は**「降雨」

です。雨水が積雪内を浸透して地表面を潤滑にし、同時に雪の重量を増すことで、積雪の底から一気に滑り落ちる「全層雪崩」**を引き起こします。栃木県那須雪崩事故から9年を迎えた今、春山の雪崩は「気温が高いから安全」ではなく、「気温上昇と雨が引き金になる」というリスク特性を再認識してください。

5. クマの目撃および出没情報

例年より早い活動開始により、登山道だけでなく市街地付近での遭遇リスクも増大しています。

5.1 東北・北海道エリア（高リスク）

- **岩手県・福島県**：岩手県では前年同期比3倍以上の出没により、過去最速の「出没注意報」を発表。福島県でも目撃数が例年の3倍に達しています。
- **北海道**：知床（ウトロ）や富良野で今季初目撃。札幌市中央区宮の森の住宅街付近でも体長1.5m級が確認されています。

5.2 本州各地の目撃例

- **三重県・藤原岳**： 3月21日、登山道で体長1mの個体が出没。**爆竹の音に全く反応しなかったため、山岳警備隊が救助に出動**する事案となりました。音響による威嚇が通用しない個体の存在に厳重な警戒が必要です。
- **東京都・あきる野市**： 養沢付近で目撃。日の出山・御岳山方面へ向かう方は注意してください。
- **長野県・上高地**： 焼岳小屋周辺や登山道で目撃が相次いでいます。

5.3 知床・羅臼岳の状況

昨年8月のクマ襲撃事故により閉鎖中の登山道は、7月上旬に再開される見通しです。ただし、再開後も個体管理と遭遇回避のための厳格な対策が求められます。

6. 遭難事例の分析

今週の遭難事案には、春山特有の判断ミスと環境要因が顕著に表れています。

6.1 気象急変と判断の遅れ

- **3月21日 北海道・雷電山**： 暴風雪によりテントが破壊され、男女3人が行動不能に。山上の予報（特に風速）の軽視が要因です。
- **3月24日 静岡県・天城山**： 家族4人が道迷いにより救助。春先の早い日没を意識せず、行動を継続したことが要因です。

6.2 夏道の埋没による道迷い

- **3月21日 静岡県・真富士山 / 中央アルプス・木曾駒ヶ岳**： 30代女性、および中学生がそれぞれ救助されました。この時期は**「夏道の埋没」**によりピンクテープ等の目印が消失しやすいため、GPSや読図スキルが不足している場合、容易に遭難へ直結します。
- **BC・特殊環境**： 北海道三段山での雪崩重体事故、谷川岳での米国籍男性らの救助など、不安定な雪質に対する技術・装備不足が目立ちます。

7. 登山者への実践的アドバイス（SOP）

山岳安全情報分析官として、以下の行動指針を「標準遵守事項」として提示します。

1. **アクセス情報の徹底確認**： 登山口だけでなく、アプローチする都道府県道・林道の規制情報を出発直前に必ず確認すること。
2. **火山・雪崩対策の義務化**： レベル2以上の火山ではヘルメット携行を必須とし、規制ラインを絶対に越えないこと。雪崩リスクに対しては、雪割れやデブリ（雪崩跡）のある斜面下部への接近を禁ずる。
3. **クマ防衛装備の適正化**： 熊鈴・ラジオに加え、「**熊撃退スプレー**」をホルスターに入れ、**即座に抜ける状態で携行**すること（ザックの中では無意味である）。
4. **15:00のハード・カットオフ**： 春先の日没の早さを考慮し、**15時までの下山完了**を絶対条件とした「プロフェッショナルな計画」を作成すること。状況に関わらず、この時間を過ぎる可能性がある場合は即座に撤退を決断せよ。